

# 鳥喰上・新田獅子舞保存会

鳥喰上熊野神社、新田稲荷神社の大祭行事として、氏子の無病息災、五穀豊穰、家内安全の願いと報恩、感謝の意をこめて毎年8月に獅子舞が奉納される。

古来より里神楽として、十二面神楽が奉納されていたが、江戸中期に紀州漁師がいわし舟とともに、房総に今の獅子の原型を運んできたといわれている。それが現在の東金市の関下で質を高め、関の下流として各地に広められた。獅子頭も地元の獅子頭と紀州の獅子頭が複合されて、現在の上総獅子頭になったと伝えられている。

当地区に伝わったのは江戸末期で、戦後一時期中断されていたが、昭和53年に再度復

活して現在に至っている。芸

としては、平獅子、お染獅子、亀の子釣り、四足等がある。

平獅子は、すべての悪魔を払い氏子の幸せを願う舞である。

お染獅子は、無病息災、子どもを悪病から守り立派に成長することを祈る舞である。次に亀の子釣りは、祝い事の代表の亀であり、その幸せを釣るといふ舞、そして四つ足は、

虎のように誰にも負けず元氣よく強くなれと願う舞というように、それぞれの由来がある。

日頃は、新築祝、七五三、結婚式、町民文化祭、老人ホーム慰問、保育園運動会等で披露するなど先輩の指導のもとに後継者が地域で培

われた伝統芸能の保存のため努力している。



すべての悪魔を払い氏子の幸せを願う舞 (平獅子)



伝統あるお染獅子

## 文芸

### 俳句

榎穀火の焼諸吹きふき秋惜しむ  
行方はじめ  
蒼空や足のからびし鴉の費

勝又やすのり  
鄙の宿人情あたたか茸飯

若梅あやめ  
露天湯の肩にあふるる星月夜

山口 一秋  
信号の長く感ずる野分かな

鈴木 南知  
蔵町の時の鐘聞き秋惜しむ

戸村 静華  
吾が余生気楽に生きて烏瓜

鈴木 草庵  
どんぐりが流れてたまる山の緑

海保 きみ  
豆の木を燃やす煙や秋惜しむ

藤代 ゆう  
常夜灯黙深く立ち星月夜

(選者) 土屋 栗水

みし声のこもれる夕べ

萩原 信一  
肴屋さんの童謡うたふ父と子の相乗り自転車公園めぐる

吉岡 信子  
このままに朽ちてならむと熱き胸語る人なく病舎ふけゆく

齊藤 要  
泥水の深き稲田に手刈する老いの手さばき若きに勝る

掛川 友代  
調味料振り入れるほどに切り干しは母の味より遠くなりゆく

八角 三枝  
組体操見にこよと子は言ひおきて花火鳴る中登校し行く

齊藤 佳子  
砂浜に妙なる紋様描きつつ吹きくる風は潮の香伴ふ

津田 若菜  
コンピュータの画面に温もる蠅のあり払ひ除けず仕事を初む

西山満里子  
縫ひぐるみの熊を客とし幼きの空箱タクシー出発をせり

(選者) 斎藤つね子

### 短歌

五年後の百歳まではと伯父上は朝毎唱へる観音経を

佐瀬 初音  
幼等の足跡しるき砂場には遊び

